



【妙法寺@寺町】

寺町台商興会/宇野甘源堂

《テーマ：お寺でコミュニティ》

第2回まち塾（まちなか商店学習塾）

寺町台商興会 × 寺町寺院群

「手焼きせんべいの魅力」×「妙法寺の縁起」

○寺院群とのコラボレーション

少なからず寺町台商興会はお寺と共に繁栄してきました。共に活動をし、また共に行事にかかわり、商店・お寺の繁栄が町の振興に貢献するという相互関係の第一歩として、協同で「まち塾」を開催する事になりました。

寺町の寺院の多くは加賀前田家の菩提寺や祈願寺であり、百姓や町民の門徒はいませんでした。そのため、寺町はいわゆる門前町（参拝者で賑わい、門前に市をなして出来上がった門前町）とは、必ずしも言えません。

寺町に商店街が形成され始めたのは明治期からのことです。日清戦争の後、軍備増強の必要性から1898年（明治31年）に大日本帝国陸軍の第9師団の駐屯地が野田につくられます。約25,000人の兵士が駐屯し、彼らの慰問に訪れる家族などが寺町通りを往来するようになり、商店街が次第に形成されるようになりました。

第二次大戦後は、平和町での団地づくりや、野田の自衛隊基地などにより、人口が増え、商店街は引き続き維持されました。

現在は、商店の事業活動と寺院群との直接的な提携関係は、寺院の境内に駐車場を借りていること以外に、あまりありません。一方、寺町400年、商店街100年の歴史があり、その間に、目には見えない提携関係ができてきました。

永島生花店は墓参用の花を寺院に納品しています（寺院には墓地があります）。

寺町の菓子店の多くは、旧陸軍駐屯地を慰問する人が、兵士への手土産として購入したところから、店が生まれ、発展したものです。墓参用に菓子を購入することもあります。

寺院は地元商店の顧客であります。商店主は寺院の檀家、門徒であるケースはほとんどありません。一方、コミュニティ活動の視点からは、商店主も寺院の住職も地域住民であり、ともに町内会活動に携わっていたり、小中学校の同級生や同窓生であったり、PTA活動に携わっているなどの関係があります。

また、現在の寺町台商興会は、閑静な住宅地に支えられながら、住民の高齢化による商品需要の変化や、駐車場不足によるマイカー利用者離れなどの影響も現れています。商店街サイドでも、店主の高齢化や後継者難の課題を抱えています。

寺町のまち塾は、寺院が持っている空間と知識を提供してもらい、商店は顧客を寺院に足を運ばせる、提携関係をつくりました。

- ・地域資源としての寺院 活用できる空間（境内や本堂）
寺院の歴史（築100年以上の古刹、庭園）
仏教文化（仏像などの文化財）
僧侶による講話
- ・活用法（案） 場所をイベントに活用する（フリーマーケット、講習会など）
観光資源として活用（商店主や店員が観光ガイドを兼ねる）
*観光土産や観光サービスの開発
- ・まち塾を最初の一步とし、提携関係を構築していきます

1. 第2回目 まち塾【宇野甘源堂】について

- 【塾長】 宇野甘源堂 店主 宇野 景介 氏
むとう設計有限会社 代表取締役 武藤 清秀 氏
妙法寺 住職 出島 三能 氏
- 【会場】 妙法寺（寺町4丁目2-6）
- 【内容】 ・せんべい屋が見てきた寺町（宇野氏）
・寺町の歴史（武藤氏）
・妙法寺の縁起（出島氏）
- 【対象】 地域住民

○宇野甘源堂とは

自家製たまご煎餅の専門店

（たまご煎餅＝たまご、小麦粉、砂糖を混ぜて焼いた煎餅）

（米を使ったものは米菓煎餅という、代表例は草加せんべい）

店主 宇野 景介（51歳） 株式会社宇野甘源堂 社長

創業90年になる老舗せんべい屋。宇野景介氏は3代目店主。

代表的な商品

- ・加賀味噌せんべい（手焼き）
- ・小判芝舟（金沢の代表的な焼き菓子、生姜煎餅、金沢の和菓子店で商品名を共有しているサイズが小型であり、叩くと小判のような音がするところからこの名前をつけた）

寺町の寺院とのつながり

- ・妙法寺の法事などで配る家紋入りの煎餅を注文生産している
- ・他にも数カ所の寺院の家紋（焼印）を保有し、注文に応じている

○概要

- ・寺町の歴史を寺町で生まれ育った三者が語る
 - 武藤氏 寺町出身で、歴史的建造物修復士として町屋の修復にも関わる武藤氏が商店街の歴史などについて語る。
 - 宇野氏 P T Aや消防団などの社会活動の経験豊富な50代の商店主が幼少期の思い出を含めて、寺町の魅力を語る
 - 出島氏 400年の歴史を持つ妙法寺の住職としてお寺の歴史を語る
- ・手焼きせんべいの魅力
 - 全国的にも珍しくなった手焼きせんべいを受け継いでいる宇野さんが手焼きせんべいの作り方の難しさと魅力を語る
- ・お寺とのコラボ
 - まち塾の会場に「妙法寺」を借り、出島住職にも講話をしていただく。歴史的、文化的な建造物である寺院、寺院群に触れることにより、親しみを感じ、買い物の帰りにお参りをする、あるいは、お参りのあとに買い物をするなどの習慣が生まれることを期待している。
- ・お寺でせんべいとお茶+ドウダンツツジ（金沢市指定文化財）
 - 樹齢400年のドウダンツツジ（現在は雪吊りをしている状態）やお寺の見学をし、せんべいをお寺で味わう。

主催 寺町台商興会

協力 石川県商店街振興組合連合会

石川県中小企業団体中央会

今後、まち塾に取り組む商店

～寺町台商興会×寺町寺院群～

第3回まち塾 永島生花店（和花の販売店）

〔テーマ〕 五百羅漢にお花を生けましょう

～寺町で百年続く永島生花店のお話と生花教室～

開催日時 平成28年2月3日（水）

開催場所 桂岩寺（寺町1丁目6番46号）

3. まち塾（まちなか商店学習塾）とは

～地域資源×商店×地域住民で、賑わい創出とまち・ひとの活性化へ～

●まち塾のスタイル

まち塾は商店主が塾長を務め、地域にお住まいの皆様には塾生になっていただきます。塾長が専門店ならではの貴重な情報や地域への思いを語り、また、塾生の皆様の声に耳を傾けます。個性的で経験豊かな商店主の人柄に触れることができるでしょう。

●まち塾の目的

まち塾は、商店街のお客様だけではなく、地域にお住まいの皆様と商店や商店街との関係を深めるために開講するものです。まち塾をきっかけに新しい商店街活動が自主的に始まることを目的にしています。

●地域資源を活用するまち塾

まち塾は、地域資源を商店街活動に活用することを考えます。地域資源は特産品や文化財だけにとどまらず、まちの景色や風習であったり、魅力的な商店主や住民であったりして、想像力を膨らませれば無限に湧いてきます。

寺町台商興会では寺町の寺院や寺院群を地域資源ととらえ、お寺とお店のコラボレーションでまち塾を企画しています。

●昨年のもち塾

まち塾は平成26年から始めました。昨年のもち塾で「発掘」した地域資源には、地域の病院、古い町家と町家の連なる街並み、ご近所にある保育園や幼稚園などがあります。それらを活用する試みとして、「糖尿病予防の健康料理教室」「町家を活かした店づくりとモノづくり」「絵本の読み聞かせ」などのまち塾を開講しました。